

研究機関・研修機関等の地方移転に関する年次プラン

平成 29 年 3 月

愛知県、(田原市)、農林水産省、(独)農研機構

道府県	対象機関	移転の概要※
愛知県	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (独)農研機構)	花きに関する研究連携拠点の設置
移転の内容※		
愛知県、愛知県農業総合試験場（東三河農業研究所）、田原市と連携し、愛知県農業総合試験場（東三河農業研究所）や田原市内に研究課題に応じて設置する実証研究ほ場において、花きの新品種開発等の共同研究等を平成 28 年度より実施する。具体的には、キクの低コスト生産技術の開発と実証、カーネーション等のゲノム解析成果を活用した新品種開発の共同研究等を実施する。		

※：政府関係機関移転基本方針（平成 28 年 3 月 22 日まち・ひと・しごと創生本部決定）抜粋

項目	内容
目指す将来像	○ 農研機構の先端的な研究手法の導入により、花きの新品種と新技術の開発が加速化され、愛知県の花き産出額が飛躍的に増加するとともに、輸入花きに対抗できる産地の育成を可能にする。 ○ 農研機構と共同で開発した新品種を活用することで、「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる、県産花きの知名度の向上と需要拡大を促進することができ、国内外に新たな需要を創出し、競争力のある花き産地を確立する。 ○ 開発した新品種と新技術による愛知県の花き産業の更なる発展と、自動車産業を始めとする異分野との連携により、農業のみならず、全地域産業を活性化させ、働く場をつくり、人を呼び込み、また新たな産業やしごとが生み出されるという好循環を継続・加速することが期待される。 ○ 我が国最大の花き産地を有する愛知県との共同研究及び現地での実証試験により、農研機構の花きのゲノム解析の成果や環境変化に対する花きの成長・生理反応に関する知見等が最大限に活用され、花き新品種の開発や低コスト生産技術の開発が飛躍的に進展するとともに、研究成果の最大化に向けた社会実装が加速される。
背景・現状	○ 愛知県の花き産出額は、昭和37年以来54年連続して全国一を誇っている。なかでも東三河南部は、キクをはじめカーネーション、バラなどの切花から鉢花や観葉植物など多岐にわたる種類を生産しており、その産出額は県全体の約 6 割を占める。特に、田原市が位置する渥美半島は全国の輪ギクの1/3を供給している大産地であり、新品種・生産技術が当地で開発されることにより、全国の花き生産を画期的に発展させることが期待される。

	○ 全国一の花き産地において、国立の研究機関との連携を進めることにより、研究成果の現地実証や普及を効率的に行うことができ、愛知県のみならず全国の花き振興に寄与することができる。また、愛知県は自動車をはじめとした産業技術が集積しており、ICT、ロボットなどの工業技術の花き生産に応用できる素地があり、農業の振興のみならず、工業分野での技術創出に寄与することが期待できる。 ○ 国立の研究機関が持つ基礎的研究手法と県の試験場が持つ現地実証的な研究開発力が、これまで以上に連携し、より効率的な開発が進むことが期待されるとともに、全国1位の産地で実証試験がされることにより、全国への普及が促進される。			
取組の内容	(参考：これまでの取組)			
	年度	取組内容	勤務状況	成果
	H28	農研機構、愛知県及び田原市がコンソーシアムを構築し、研究等を開始 ・キクの低コスト生産技術の開発と実証(①) ・農研機構、愛知県が連携して研究計画を作成し、5月31日に平成28年度の研究を開始。 ・輪ギクの低コスト栽培技術の確立と田原市内での実証を実施 ・ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発(②) ・農研機構、愛知県が連携して研究計画を作成し、8月30日に平成28年度の研究を開始 ・さらに発展させるための研究の枠組みの検討	(研)農研機構の花き分野の研究者4人が出張し、(①：2人、②：2人) 愛知県農業総合試験場の研究者6人(①：3人、②：3人)と共同研究を実施	・短い栽培期間で収穫する技術の開発(①) ・カーネーションの共同育成品種「カーネ愛農1号」(平成27年9月出願公表)の普及(利用許諾契約4件等)(②) ・カーネーション萎縮病抵抗性系統(愛知県選抜)を用いた接種検定試験データを整備(②)
	(今後の取組)			
	年度	取組内容	勤務状況	成果
	H29	・キクの低コスト生産技術の開発と実証(①) ・輪ギクの1作単位面積当たり収量を増加させる技術の開発 ・ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発(②) ・愛知県から農研機構に研究員を派遣 ・カーネーション選抜マーカー	愛知県から農研機構に研究員1名を派遣 (研)農研機構の花き分野の研究者5人が出張し、(①：3人、②：2人) 愛知県農業総合	・1作単位面積当たり収量を30%以上増加させる栽植様式に係る実証データの整備(①) ・カーネーション萎凋細菌病抵抗性育成系統の評価、

		の共同開発を開始	試験場の研究者 7人(①:3人、 ②:4人)と共同 研究を実施	検定(②)
	H30	・キクの低コスト生産技術の開発と実証(①) ・輪ギクの年間単位面積当たり収量を増加させる技術の開発 ・当該技術を田原市内で実証し他の花き産地への普及を加速化 ・ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発(②) ・有用形質選抜マーカーの共同開発の開始	(研)農研機構の花き分野の研究者4人が出張し、 (①:2人、②:2人) 愛知県農業総合試験場の研究者 7人(①:3人、 ②:4人)と共同 研究を実施	・年間単位面積当たり収量を50%以上増加させる技術の実証及び先進技術を活用した農業経営者の育成(①) ・カーネーション育成系統の現地実証栽培データの整備(②)
	H31	・得られた低コスト生産技術、新品種の現地への導入等、更なる研究の検討(①) ・県内先進的生産者団体との情報交換により技術の積極的な普及を図る ・研究成果を踏まえて、研究の発展を検討 ・ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発(②)	30年度と同程度を想定	・開発技術の普及による愛知県花き生産の競争力強化(P) ・開発したオリジナル品種による愛知県カーネーション生産の増大
	H32	・得られた低コスト生産技術、新品種の現地への導入等、更なる研究の検討(①) ・県内先進的生産者団体との情報交換により技術の積極的な普及を図る ・研究成果を踏まえて、研究の発展を検討 ・ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発(②)	30年度と同程度を想定	
	H33	・得られた低コスト生産技術、新品種の現地への導入等、更なる研究の検討(①)	30年度と同程度を想定	

